

発表者へのお知らせ

1. 発表の要件

- ・筆頭発表者ならびに共同演者は原則として東日本整形災害外科学会の学会員に限ります。非会員の演者は発表前に入会の手続きをしてください。未入会の演者は発表をお断りいたします。
- ・理学療法士、作業療法士、看護師、薬剤師、学生の方は学会員でなくとも発表者・共同演者となります。

2. 発表方法について

- ・演者は担当セッション開始10分前までに次演者席にご着席ください。
- ・口演発表はコンピュータプレゼンテーションのみといたします。データ、PC本体の持ち込みのどちらでも可能です。ただし、動画が含まれる場合やMacintoshをご利用の場合は、PCの持ち込みを推奨いたします。
- ・演台にモニター、マウス、キーボードを用意しますので、ご自身の操作で進めてください。
- ・発表時間終了1分前は黄色ランプ、発表時間終了は赤色ランプでお知らせします

3. 口演時間

特別講演：	個別にご案内した時間となります。
文化講演：	個別にご案内した時間となります。
教育研修講演：	個別にご案内した時間となります。
シンポジウム：	個別にご案内した時間となります。
第74回学術奨励賞受賞者講演：	発表8分、質疑応答3分
若手優秀演題アワードセッション：	発表5分、質疑応答2分
ケースレポートアワードセッション：	発表5分、質疑応答2分
理学療法士・作業療法士セッション：	発表5分、質疑応答2分
看護師セッション：	発表5分、質疑応答2分
一般演題：	発表5分、質疑応答2分

4. 講演発表データ作成方法

- ・学会が用意するPCはWindows 11、アプリケーションはPowerPoint 2024です。
- ・スライドサイズは16：9を推奨します。
- ・発表データは、Microsoft PowerPointでの作成・保存をお願いします。
- ・出力解像度はフルHD（1920×1080）です。このサイズより大きい場合、スライド周辺が切れてしまいますので、画面の設定を16：9に合わせてからレイアウトの確認を行ってください。
- ・フォントはWindows版Microsoft PowerPointに標準装備されているものをご使用ください（MS・MSPゴシック、MS・MSP明朝、Arial、Times New Roman、Century等）。特殊なフォントを使用されますと、代替フォントが使用され、レイアウトが崩れることがあります。特殊なフォントを使用される場合は画像化し、オブジェクトとして貼り付けてください。
- ・ファイル名には、演題番号・講演者名を入力してください。
- ・動画ファイルを内蔵しているデータの場合は、所定の動画フォルダに動画データが格納されていることをご確認ください。また、他のPCでの動作確認を必ず事前に行ってください。
- ・音声出力や動画出力がある場合は、必ずPC受付スタッフにお伝えください。
- ・メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、事前にメディアのウイルスチェックを行ってください。

5. PC 受付

発表データまたは PC 本体を，講演開始 30 分前までに PC 受付へ持参し，試写確認をしてください。
受付日時

9 月 3 日（木）	8：15～17：00	にぎわい交流館 AU 2F アートギャラリー 秋田キャッスルホテル 4F ロビー
9 月 4 日（金）	8：15～15：00	

【データをご持参の場合】

- ・発表データは，USB で，ウイルスチェックを済ませたものをご持参ください。
- ・USB には，当日講演に使用されるデータ以外は，保存しないようにしてください。
- ・プレゼンテーションに他のデータ（静止画・動画・グラフ等）をリンクさせている場合は，必ず元のデータも保存し，データを作成された PC とは別の PC で，事前に動作確認を必ずお願いいたします。
- ・データは，学会が用意するサーバーに一度コピーしますが，学会終了後に責任を持って消去します。

【PC 本体を持ち込まれる場合】

- ・持ち込みが可能な機種は，Windows 11 が動作する機種または Macintosh で，モニター出力端子に HDMI が装備されているものに限り（薄型 PC では出力端子の規格が異なることがあります）。出力の規格が異なる場合は，接続用の端子を必ずご持参ください。
- ・電源アダプターは必ずご持参ください。
- ・音声出力や動画出力がある場合は必ずオペレーターにお伝えください。
- ・PC のスリープ機能，スクリーンセーバーや省電力機能など，発表の妨げとなる設定はあらかじめ解除してください。
また「発表者ツール」を使用した発表はできませんので，ご注意ください。
- ・万が一に備え，別途バックアップデータを USB でご持参ください。なお，USB は，最新のウイルスソフトを使用してウイルスチェックを済ませたものをご持参ください。
- ・PC 本体は，PC 受付で外部出力および動作確認を行った後，発表の 20 分前までに次演者席付近に設置してある PC オペレーター席へ，各自でご持参ください。PC 受付ではお預かりいたしません。
また，発表は舞台上のマウス，キーボードをご自身で操作して進めてください。
- ・講演終了後，PC オペレーター席にて PC 本体とバックアップデータを返却いたします。

利益相反（発表にあたって）

東日本整形災害外科学会は、平成23年2月に公表されました「医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」（日本医学会）に則して、第64回東日本整形災害外科学会から発表者に利益相反状態の開示を行っていただくことといたしました。筆頭発表者は該当するCOI状態について、発表スライドの1枚目に過去1年における発表内容と関連のある企業との利益相反（COI）状態を項目別に基準額以上の場合に開示してください。

※利益相反のスライドは本会のホームページからダウンロードしてください。

なお、利益相反の有無にかかわらず、全ての発表者に開示していただく必要があります。

座長の先生へのお知らせ

1. 座長の先生は担当セッション開始予定時刻の10分前までに次座長席に着席してください。
2. 進行は時間厳守をお願いいたします。

発言者へのお願い

時間が限られておりますので、発言をご希望の方はあらかじめマイクの前に立ち、座長の指示に従い、所属・氏名を述べた後に簡潔に質問・発言をしてください。

日本整形外科学会単位付与講演を受講される先生へのご案内

1. 抄録集に付録の教育研修講演申込書に必要事項をご記入の上、1単位につき1,000円を添えて、会場受付でお申し込みください。単位の申し込みは、受講前にお済ませください。お支払いは現金のみとし、クレジットカードでのお支払いはできませんのでご注意ください。
2. 単位取得希望の方は、日整会会員専用ページ・日整会JOINTSアプリから取得したQRコードを必ずご持参ください（日整会基幹システム更新のため会員カードは廃止されております）。
3. 単位の反映には少々お時間を頂戴いたしますのでご了承ください。
4. 研修会の単位は、認定されたN（整形外科専門医資格継続のための単位）の分野のうち、小さい番号の必須分野に自動的に入ります。他の必須分野や認定医継続のための単位（S, R, SS, Re）を希望される先生は、開催日より約1週間後以降に、単位振替システム上で受講者ご自身で希望単位への振替えをお願いいたします。
5. 取得できる単位は最大8単位です（開催時間重複のため）。
6. 受講料は講演中止などの理由以外では払い戻しいたしません。また受講取り消し、変更の手続きや領収書の再発行はいたしません。

若手優秀演題アワード表彰のご案内

優秀な講演に対し、若手優秀講演賞（2026年9月3日時点で35歳以下かつ未専門医（初期研修医・後期研修医含む）の方対象）を設けます。座長が審査員となり受賞者を選定し、閉会式で表彰します。受賞者には、賞状と副賞が授与されますので、閉会式にご参加ください。

ケースレポートアワード表彰のご案内

優秀な講演に対し、ケースレポートアワード（未発表の演題対象）を設けます。座長が審査員となり受賞者を選定し、閉会式で表彰します。受賞者には、賞状と副賞が授与されますので、閉会式にご参加ください。

理学療法士・作業療法士セッションおよび看護師セッション表彰のご案内

それぞれのセッションの優秀な講演に対し、座長が審査員となり受賞者を選定し、閉会式で表彰します。受賞者には、賞状と副賞が授与されますので、閉会式にご参加ください。

東日本整形災害外科学会学術奨励賞のご案内

以下の内規に従い、第 75 回学術集会での発表論文の中から奨励賞論文が選考されます。

学術奨励賞に関する内規

1. 座長推薦（各セッションの座長が奨励賞候補論文として発表者演題を原則として 1 題推薦する。）
2. 候補者の対象は原則として学会発表時点で 40 歳以下の正会員とする。
3. 学術奨励賞は原著に限る（学術奨励賞原著論文部門）。
症例報告は以下とする（学術奨励賞症例報告部門）。
4. 副賞は原著論文 30 万円、症例報告 10 万円とする。

第 74 回（令和 7 年度）学術奨励賞受賞者

学術奨励賞受賞者には 7 月に事務局より通知いたしました。

受賞者は総会で会長から奨励賞状および副賞を授与表彰されますので、総会へのご出席をお願いいたします。

【原著部門】

関東 宜記先生（新潟大学整形外科学分野）

「人工股関節全置換術後の大腿部腫脹に関与する因子と疼痛との関連」

【症例報告部門】

高嶋 吉朗先生（横浜市立みなと赤十字病院整形外科）

「慢性 DIC を背景に硬膜動静脈瘻出血により頸椎硬膜下血腫を生じた 1 例」